

徒然草『ある人、弓射ることを習ふに』定期テスト
対策問題

組 番 氏名

／100点

■ 本文

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢〔①〕をたばさみて的に向かふ。師の言はく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ〔②〕。後の矢を頼みて〔③〕、初めの矢になほざり〔④〕の心あり。毎度、ただ、得失なく、この一矢に定むべし〔⑤〕と思へ」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかに〔⑥〕せんと思はんや〔⑦〕。懈怠〔⑧〕の心、みづから知らずといへども〔⑨〕、師これを知る。この戒め、万事にわたるべし。道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ〔⑩〕、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す〔⑪〕。いはんや〔⑫〕、一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだ難き〔⑬〕。

※「等閑」は「なほざり」と読みます。底本により表記の揺れがありますが、ここでは一般的な高校教科書の本文に従いました。

■ 設問（全22問）

- 傍線部①「諸矢」について、次の問いに答えなさい。
 - この語の読みをひらがなで答えなさい。
 - どのようなものを指すか、簡潔に説明しなさい。
- 「初心の人、二つの矢を持つことなかれ」と師が戒めたのはなぜか。本文に即して説明しなさい。
- 傍線部②「二つの矢を持つことなかれ」について。
 - 「なかれ」を文法的に説明しなさい（語の種類と意味）。
 - この一文を現代語訳しなさい。
- 本文の教訓は、現代の私たちの生活にもあてはまる。あなたが「後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり」と同じ失敗をしそうな場面を、一つ具体的に挙げなさい（自由記述）。
- 傍線部③「頼みて」を、文中の意味に即して現代語訳しなさい。
- 傍線部④「等閑（なほざり）」の意味として最も適切なものを、次から一つ選びなさい。
 - いいかげんに考えて本気でないこと
 - 心をこめて大切にすること
 - 強く期待して頼りにすること
 - おそれてためらうこと
- 傍線部⑤「定むべし」の「べし」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
 - 推量
 - 意志
 - 当然・義務
 - 可能
 - 命令
- 傍線部⑥「おろかに」の意味を答えなさい。また、現代語の「愚かだ」との意味の違いに注意して説明しなさい。

9. 傍線部⑦「思はんや」について。

- (1) 「思は」の活用形（活用の種類と活用形）を答えなさい。
- (2) この「や」は何を表すか、文法的に説明しなさい。
- (3) 全体を現代語訳しなさい。

10. 傍線部⑧「懈怠」の読みと意味を答えなさい。

11. 傍線部⑨「みづから知らずといへども」を現代語訳しなさい。

12. 師は弓の稽古を例にとって何を教えようとしているか。本文中の「この戒め、万事にわたるべし」をふまえて、四十字以内で説明しなさい。

13. 傍線部⑩「夕べには朝あらんことを思ひ」の「ん（む）」の文法的意味として最も適切なものを次から選びなさい。

ア 意志 イ 推量 ウ 仮定・婉曲 エ 勧誘

14. 傍線部⑪「期す」の意味を、文脈に即して答えなさい。

15. 傍線部⑫「いはんや」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。

ア まして イ もしかすると ウ どうして エ かろうじて

16. 傍線部⑬「ただちにすることのはなはだ難き」を現代語訳しなさい。また、文末が「難き」と連体形で結ばれている理由を説明しなさい。

17. 「懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る」とあるが、ここで兼好が言おうとしていることを、二十五字以内で説明しなさい。

18. 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

ア 弓の名人になるには、矢を多く持って何度も射るのがよい。

イ 師は、弟子の怠け心を見抜くことができないものだ。

ウ 人は無意識のうちに「次がある」と考えて今をおろそかにしがちである。

エ 学問は朝より夕方に励むほうが効果的である。

19. この文章で、兼好が最も伝えたい主張を述べた一文を、本文中から抜き出しなさい（句読点を含まない）。

20. 次の文学史の問いに答えなさい。

(1) 『徒然草』の作者を、僧としての名で答えなさい。

(2) 『徒然草』の成立した時代を答えなさい。

(3) 『徒然草』のジャンル（文学の種類）を漢字二字で答えなさい。

21. 『徒然草』と同じジャンルに属する平安時代の作品を、作者名とあわせて一つ答えなさい。

22. 「嗜む（たしなむ）」という語は、芸事や学問に熱心に打ち込む意味で古文によく用いられる。この語を用いて、本文の師が弟子に求めた学びの姿勢を一文で説明しなさい（自由記述）。